

POWER!

http://www.yakuren.jp

2021年
5月
vol. 74

令和3年(2021年)
5月20日発行
発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200
発行月 ● 隔月発行



かみや 神谷まさゆき副会長 活動報告(7)



神谷まさゆき副会長が、日本薬剤師連盟の組織内統一候補に決定されてから1年以上が経過した。

定時評議員会で挨拶!

3月24日の定時評議員会では、予想もなかった新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、ウェブでの挨拶を中心に活動したこの一年間を振り返って、「多くの関係者の温かい支援の思いに感謝する」とも、直接支援者に触れることの喜びを痛感したと挨拶し、「残された一年数か月を死に物狂いで駆け抜けるので、全国の薬剤師の皆さんのご支援をお願いしたい」と結んだ。

支部訪問活動が始まる!

一方、新型コロナウイルス感染症の収束は未だ見通せず、1月には再度の緊急事態宣言が発出され、3月に解除となったが、4月にはまん延防止等重点措置が大阪等に適用され、4月25日には、東京、京都、大阪、兵庫の4都府県に5月11日まで3回目の緊急事態宣言が発出された。さらに、5月7日には、愛知、福岡を加えて31日まで



徳島県(2月17日、18日)



愛媛県(2月24日~26日)



愛知県(3月2日~5日)



岐阜県(3月9日~12日)



静岡県(3月16日~19日)



香川県(3月25日、26日)



兵庫県(3月30日~4月2日)



京都府(4月6日~9日)

延長することになった。

このような状況の中で、神谷副会長の活動は、2月から支部周り・薬局訪問を中心とする内容に移行した。しかし、緊急事態宣言が発出されていたため、高知県においては地元役員が薬局を訪問し、持参したスマホを使って神谷副会長との対話を実現するという活動を展開していた。本号から、徳島県以降の支部回りの様子を整理して報告する。

●徳島県(2月17日、18日)

神谷副会長による薬局訪問に代えて、2回の地域支部におけるリアルとウェブ参加のハイブリッド研修会を開催した。神谷副会長はウェブ参加し、2日間の参加者は143名であった。

●愛媛県(2月24日~26日)

3日間を通じて、地元役員が卸事業所14か所、薬局100か所、病院、配置薬販売協を訪問し、神谷副会長はリモートにより交流を行った。また、3日間とも夜間に会場参加者とウェブ参加者による交流会を開催した。役員のほか会員130名が参加し、神谷副会長とリモートでの対話を行った。

●愛知県(3月2日~5日)

本部役員、県連役員等が同行し、2日に刈谷支部、碧南高浜支部、3日に岡崎支部、4日に豊田加茂支部、5日に西尾支部、安城支部の薬局、自民党支部等を訪問した。訪問か所は3日間で113か所であった。

●岐阜県(3月9日~12日)

岐阜支部、揖斐支部、高山支部、飛騨支部、毛呂支部、関支部の支部長の薬局を中心に20薬局を直接及びウェブにて訪問するとともに、支部役員との面談を行った。また、岐阜医療科学大学薬学部を訪問し、学長等と面談した。

●静岡県(3月16日~19日)

明石会長ら役員、支部役員が同行し、16日に熱海市内、三島市内、17日に沼津市内、静岡市内、18日、19日に湖西市、浜松市内の薬局86か所、卸事業所6か所のほか、支部研修会での挨拶、国会議員事務所訪問などを行った。

●香川県(3月25日、26日)

2月第一週に予定されていた支部訪問がコロナ禍のため中止となったことから、四国地区の予備日となっていた3月25日、26日の二日間を活用して、初日はリアル訪問班とウェブ訪問3班による訪問、二日はリアル訪問により総計10支部、142薬局を訪問した。また、初日の19時から、四国ブロック若手フォーラム(徳島県が開催)に、香川県のサテライト会場から参加することができた。

●兵庫県(3月30日~4月2日)

兵庫県を伊丹市から西に向かって進み、薬局と卸事業所の訪問活動を中心として、最後は淡路島に渡った。また、初日の夜は川西市、二日目は姫路市、三日目は小野市において「神谷まさゆきミニ集会」が開催された。

され、参加者は総計100名であった。兵庫県では本田選挙の時と同様に、神谷副会長が肘タッチをした人数を記載した神谷カレンダーを携行しての活動であった。訪問件数は薬局113か所、卸事業所6か所であった。

●京都府(4月6日~9日)

京都市を中心に、薬局86か所、卸事業所4か所、製薬会社2社を訪問した。また、自民党の京都府連、府議団、市議団への挨拶も行った。更に、京都市と長岡京市ではウェブ併用の会員との交流会が行われ、60名以上と交流ができた。

その他の会合にも参加!

神谷副会長は、支部訪問活動とともに、可能な限り都道府県の会合にも参加している。2月中旬から4月中旬までの間に、岐阜県薬剤師会地域代表者協議会・ウェブ、鹿児島県薬剤師会医療安全研修会、オンライン研修会・ウェブ、鳥取県(薬剤師連盟東部・中部合同班長会、西部班長会・ウェブ)、福岡県(薬剤師会学術大会、薬剤師連盟会長会・ウェブ、福薬「E」連絡会議・ウェブ)、三重県(薬剤師生涯研修会・ウェブ)、茨城県(薬剤師会理事会・ウェブ)、大分県(薬剤師会理事会・ウェブ)、東京都(ネクストフォーラム、薬剤師連盟臨時総会・リアル)、愛知県(薬剤師会臨時時代議員総会・リアル)、岩手県(薬剤師会理事会・地域薬剤師会・リアル)、京都府(薬剤師会臨時総会・ウェブ)、熊本県(薬剤師会臨時時代議員総会・ウェブ)を訪問した。

支部訪問、都道府県会合への参加以外にも、2月中旬から4月中旬までの間に、20回を超える都道府県支部薬剤師会の会合にウェブを中心として参加するとともに、日本薬剤師会の総会にリアルで参加、日本病院薬剤師会臨時総会にウェブ参加など、活発な活動を展開している。

風力計



日本薬剤師連盟
中国ブロック総務 吉田 力久

風が吹いている

今期より、常任総務に就任されました中原靖明先生の後任として日本薬剤師連盟中国ブロック総務を拝命しております吉田力久です。微力では御座いますが、一生懸命努めさせていただきます。

昨年は新型コロナウイルスではじまり、収束することなく今年になり2度目、3度目の緊急事態宣言が発出され、地元山口県では2月に開催予定の若手フォーラムが3月13日に延期となるなど、神谷まさゆき先生と直に触れ合える大変貴重な機会に影響を及ぼしています。

そうした中で大きな期待が寄せられるのがワクチン接種です。当初新型コロナウイルスエンザワクチンでは薬剤師は優先接種の対象外でしたが、今回の新型コロナウイルスでは薬剤師国会議員の御尽力と日薬連盟の活動により、優先接種の仲間入りができました。現場の薬剤師の思いが叶ったことに感謝するとともに、改めて薬剤師議員と連盟の重要性を現場に伝えなければならぬことを痛感しました。

新型コロナウイルス接種の現場ではパールの保管管理、溶解、希釈等に関わる「薬剤師」が必要とされています。またワクチン接種専門相談センターが設置されるなど専門家である「薬剤師」が国民の不安を払拭しており、TV等で紹介されています。

しかしながら、ワクチンに不安を抱く高齢者、基礎疾患を有する患者が本心に相談したいのは、薬や体調など自分のことを分かってくれている「かかりつけ薬剤師」ではないでしょうか。薬局の窓口で「薬剤師職能」をアピールする絶好の機会です。今、風を感じます!

神谷まさゆき後援会における広報活動についての説明会を開催

特にSNS等による広報活動の活性化に向けて

3月9日に幹事長対象、3月19日には事務長を対象とした「神谷まさゆき後援会における広報活動についての説明会」がウェブを使い、橋本常任総務が司会者となり開催された。説明会の内容は、同様の内容で行われた。

山本会長開会挨拶

広報活動において、神谷本人がお伺いして話ができないという状況がなお続いています。こうした状況において、1人でも2人でも多く、神谷を支援していただく方々の輪を広く広げていく手段としてウェブを使って皆様方の所へご挨拶をする、機関誌「POWER!」配布の際に一軒一軒会員の店舗にお伺いして名前と顔を知ってもらう事が必要です。会員の皆様に、確実にしかも安全に、そして効果的に神谷まさゆきの名前が知られるような手段を講じていきたいと思っています。



一候補も努力をし、皆様にご挨拶をさせて頂いております。評議員会で決定直後に新型コロナウイルス禍という未経験の状況となり、このような中で、まず顔と名前を覚えていただき、神谷まさゆきという名前を聞けば彼の風貌が目に見え、神谷まさゆきという人柄が想起される。そしてこの男だったら支援をしようと思っただけの活動をしていくか、執行部の役割だと認識しています。現況下においては、室内用ポスターの他、SNSを活用した広報活動しかありません。10・70・30の目標に向かっていくためには、多くの会員がメルマガを読み、Facebookで活動状況を知ることが必要です。この活動を広げるために本日の説明会を開催しました。是非ともご理解を賜り、ご議論を戴いて都道府県薬剤師連盟においても今後の活動に活かして戴きますようお願いいたします。

広報用資材説明 鳥海副会長

日本薬剤師連盟から都道府県薬剤師連盟に送付されている室内掲示用ポスターが薬局事務所に掲示されているか確認をして下さい。また、布製大型室内用ポスターを制作して、集会時に掲示しやすくしました。三つ折りのパンフレットは、「神谷まさゆき」副会長を会員に知って戴く基礎資料です。積極的に配布・活用して下さい。日本薬剤師連盟では新たなバッジを作成したので、記章を着用し結束を固めましょう。



開催趣旨説明 荻野副会長

後援会活動は、残りところ1年4ヶ月と言ったところまで来ました。神谷まさゆき組織内統



今回の神谷まさゆき後援会活動では「メールマガジン」「Facebookページ」「LINE公式アカウント」「神谷まさゆきホームページ」「LINE公式アカウント」を「4点セット」と呼び活用をお願いしています。特に直接「神谷まさゆき」副会長の声を届けることが出来る「メールマガジン」「LINE公式アカウント」を登録して戴きたい。

今回の神谷まさゆき後援会活動では「メールマガジン」「Facebookページ」「LINE公式アカウント」「神谷まさゆきホームページ」を「4点セット」と呼び活用をお願いしています。特に直接「神谷まさゆき」副会長の声を届けることが出来る「メールマガジン」「LINE公式アカウント」を登録して戴きたい。

SNS等の活用 浜田副幹事長

SNSを用いた選挙が解禁され、コロナ禍においてその積極的な活用を図っているところですが、単に登録をお願いするだけではなく、目標数と達成時期をお示しし、紹介者・支援者名簿数と同様に、大変お忙しい中で恐縮ですが、紹介者名簿目標数の全ての方々が登録されるという目標を達成して戴きますようお願いいたします。



石井副会長開会挨拶

皆様ご苦労様でした。1時間という

短い時間でありましたけれども何とかしなければいけないという気持ちで説明会を開催させて頂きました。コロナ禍においてはSNSを使わない手はありません。藤井基之参議院議員、本田顕子参議院議員の2人体制ができた事により、補助金やワクチンの優先接種等の話がスムーズに出来る環境が整っています。自民党の会合の中における発言力も2倍ではなくそれ以上になっています。神谷まさゆき組織内統一候補は毎週PCR検査をし、陰性を確認して支部訪問をしています。是非とも2人体制を絶対に維持したいと思っておりますので、幹事長、事務局長をはじめ各都道府県の役員の皆様のご協力をお願い申し上げます。私の閉会の挨拶と致します。

神谷まさゆき君を応援しよう！！

<p>ホームページ</p> <p>神谷まさゆき君の政治信条やプロフィール、活動の様子等をご覧いただけます</p>  	<p>薬剤師「神谷まさゆき」の活動日誌 (Facebook ページ)</p> <p>神谷まさゆき君の活動の様子をタイムリーに写真や動画とともにご覧いただけます</p>  
<p>LINE公式アカウント</p>  <p>LINE公式ID:@804mflcd</p>	<p>メールマガジン</p> <p>神谷まさゆき君からコラム、トピック等を月1回お届けします</p>  <p>パソコンからのEmail受信拒否設定などをされている場合は、下記アドレスからのEmailを受け取れるように設定してください。 info@kamiya-masayuki.com</p>

薬剤師「神谷まさゆき」の活動日誌



薬剤師「神谷まさゆき」の活動日誌 **ここを「クリック」する**

@kamiya.masayukilog · 政治団体

メッセージを送信

「いいね!」済み

ホーム レビュー 動画 写真 その他

令和2年度 定時評議員会開催される!!

令和3年3月24日(水)午後1時よりスクワール麹町において「令和2年度定時評議員会」が開催された。今回も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から原則、書面評決となり出席評議員は5名にとどまった。

開会挨拶

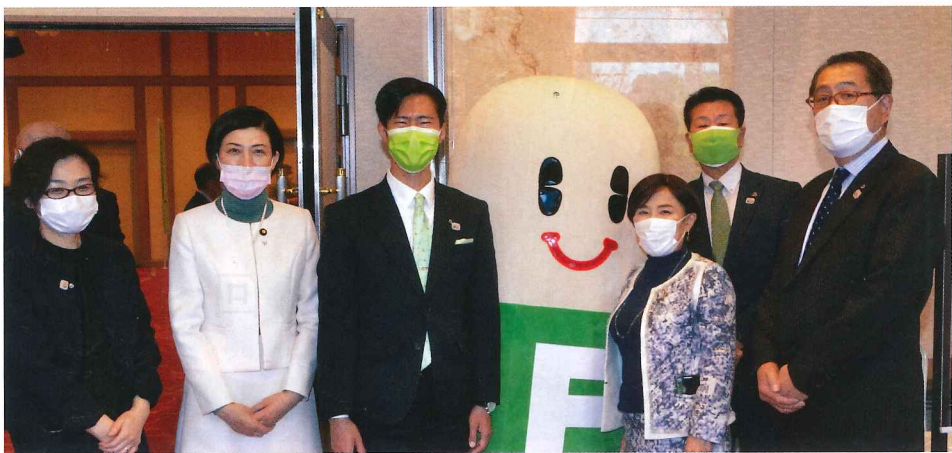
まずは馬場常任総務の司会で始まり、山本会長は「組織の代表を確実に送ることが一人前の組織として認められることにつながる。」と挨拶し、評議員会がスタートした。

来賓挨拶

続いて薬剤師国会議員の松本純衆議院議員、藤井基之参議院議員、逢坂誠二衆議院議員、本田顕子参議院議員より祝辞をいただき、公務のため出席できなかったとかしきなおみ衆議院議員からは祝電を頂戴しており、司会者より披露された。

副議長登壇

その後、明石副議長が登壇し、都合で出席できなかった金安議長に代わり進行を務めた。まず、重要事項の経過報告を右



井副会長より説明が行われ、直近の政治課題を中心に報告がなされた。

議案説明

次に報告第1号 令和2年度会務並びに事業中間報告について、議案第1号 令和3年度事業計画の件、議案第2号 令和3年度責任負担金賦課額に関する件、議案第3号 令和3年度責任負担金単価に関する件、議案第4号 令和3年度収入支出予算の件、議案第5号 令和3年度借入金最高限度額の件につき、担当の石井・荻野副会長より詳細な説明がなされた。

採決

質疑応答の後、副議長より採決が行われ報告・議案共、賛成多数で原案どおり可決承認された。

協議

休憩の後、協議が行われ神谷まさゆき支援活動の件を中心に岩本幹事長、大澤・鳥海副会長より報告されて質疑応答になった。そして、神谷まさゆき副会長より「全国キャラバン」の経過報告と共に、今までのキャラバンで尽力いただいた方々に対して感謝の気持ちを伝えると共に、決意表明が行われ、自身の熱い思いを力強く語り、会場からは大きな拍手がわき起こった。ここで明石副議長が降段し、大澤副会長の閉会挨拶で定時評議員会の幕を閉じた。

令和2年度組織強化に関する 担当者全国会議開催される

令和3年2月26日13時からウェブ形式にて組織強化に関する担当者全国会議が開催された。

国会議員のご来賓として藤井基之参議院議員、本田顕子参議院議員からご挨拶をいただいた。

冒頭ご挨拶で山本会長からは「組織強化の主たる目的は、会員をどう増やして行くか、財政基盤をどう支えるか、そして最終的に組織の集票力を高めていくことにある。」と挨拶がなされた。

また、神谷副会長から組織内統一候補者としての決意表明があり、出席者に熱く語りかける機会になった。

その後会議は次第通りに進められ、荻野副会長から本会議の趣旨説明、丹下総務からは「組織強化のための手順書」ステップ表の活用「Ver.3.1」に

ついての解説があり、休憩を挟んでからスモールグループディスカッション(SGD)を行った。

テーマは、「前回の選挙時までの『組織強化のための手順書』活用を踏まえて、次期選挙時までの手順書をどう活用するか」とし、6班に分かれて90分間の議論を行った。

今回の全国会議では、新型コロナウイルス感染症対策の一環としてウェブ形式での開催としたが、全国フォーラム等の開催経験もあり、また参加者についてもZoomでのウェブ参加にはすでに慣れていることもあり、極めてスムーズに運営された。

組織強化委員会はこれまで、三つの柱と設定した1. 会員増強、2. 財政基盤強化、3. 集票力の強化について議論を

してきた。しかしながら、日本薬剤師連盟の会員数の減少には歯止めがからない状況に危機感を感じており、薬剤師の政治力の低下を招かないようにしなければならぬ。そのような中で、今回示した、いわゆる「ステップ表」の活用を47都道府県において十分理解し取り組んでいただきたい。その結果として我々の組織内統一候補者をいつでも強力に支援できるようにすることが最終的な目的である。

当日のディスカッションではその主旨が伝えられた。

今後は、都道府県薬剤師連盟、地域薬剤師連盟のそれぞれにおいて、本日の全国会議を踏まえながら「組織強化のための手順書」いわゆる「ステップ表」の活用を進めていただくことを期待して、最後に浜田副幹事長の閉会の挨拶で終了した。



もとゆき Report 藤井もとゆき国会レポート

薬剤師・薬学博士
情報監視審査会会長・参議院議員 藤井基之



国産ワクチンへの期待

新型コロナウイルス感染症は、新規感染者の急増と変異株による感染割合の増加が顕著となり、4月25日に3回目となる緊急事態宣言が東京都、大阪府京都府及び兵庫県に発令されました。

新型コロナウイルスのワクチン接種は、医療従事者に続いて高齢者の優先接種も始まりましたが、未だ接種できない医療従事者の方がいるなど、その供給量は必ずしも十分とは言えない状況にあります。現在使われているファイザー社ワクチンに続く、モデルナ社、アストラゼネカ社のワクチンについて、承認、供給見込みを明らかにしていくことは、ワクチン接種を待ち望む国民の不安の払拭につながるものと思います。

新型コロナウイルスワクチンは、当面は海外からの輸入に頼らざるを得ませんが、ワクチンの国内開発、国内製造の技術を確認しておくことは、感染症対策はもとより、安全保障上の観点からも重要な意義を持つものです。

国内の製薬企業等においては、組換えタンパクワクチン、mRNAワクチン、DNAワクチン、不活化ワクチン等の多様なワクチン開発が進められています。国産のワクチン開発は、国際的な競争から遅れを取ることでありましたが、今後のワクチン開発に当たっては、既存のワクチンに比べて、有効性、安全性やコストの面で優れた製品を開発していくことが重要であり、この点を踏まえた積極的な支援策が必要となっています。

かみや 神谷まさゆき 物語

～第6回～



さて、このように神谷まさゆき物語を掲載させていただいているのも、組織内統一候補として選任いただいたからです。思い返すとその運命の歯車は、平成25年に愛知県薬剤師会理事に就任した頃から

動き始めていたのかもしれない。理事として愛知県薬剤師会の会務に深く関わるようになった私は、同時に連盟活動にも積極的に携わるようになりました。愛知県薬剤師連盟の総務にも就任をし、その流れから日本薬剤師連盟企画実行委員会に東海ブロック選出として参加をいたしました。正直に申し上げると、実はこの時点ではそれ程政治と薬剤師の関わりについて、深くは理解をしていませんでした。しかし、素晴らしい委員会メンバーに囲まれて刺激を受けながら、藤井基之先生の後援会活動についても知るうちに徐々にその知識を深め、政治や法律がいかに国から負託された資格である薬剤師のあり方や業務に影響を与えているのかを学びました。

薬剤師の未来のために、政治力も必要だ。その一念から、平成28年第24回参議院議員通常選挙(藤井選挙)では地元豊橋に



地元豊橋で社会保障と薬剤師について講演をした時の様子

おいて、その重要性を懸命に訴え続けました。その結果、豊橋の連盟活動に対する意識が大幅に伸び、選挙結果はその熱量に比例することを実感しました。

その翌年、平成29年は業界とは関係なく政治の大切さを知ってもらう活動をする年になりました。それは青年会議所で理事委員長という役職を担い、主権者教育に関する事業に一年間取り組みました。ちょうど18歳選挙権のこともあり、よりよい未来を創るために、高校時代から政治・行政に対する関心を高めることで、その後継続的に投票に足を運ぶひとづくりまじりくりにしよう、という発想の基



担当例会をプレスリリースした際、理事長と担当副理事長と一緒に

事業に取り組みました。そのためには自分自身が一番政治に関心を持っていないわけにはいきません。更に広い視野で政治に触れるきっかけとなりました。

そのような政治に対する熱が高まった状態で、関わったのが日本薬剤師連盟企画実行委員会としての本田あきこ先生の後援会活動でした。様々な議論を真剣に交わし、共に汗をかいて励まし合った実行委員会メンバーと共に迎えた令和元年(平成31年)7月の第25回参議院議員通常選挙の投票日、明け方に当確が出た歓喜の瞬間のことは現在も鮮明に覚えています。



日本薬剤師連盟企画実行委員会メンバーとの歓喜の笑顔

一方で、地元豊橋はこれまで以上に取組んだにも関わらず、様々な事情があり前回よりも厳しい結果となりました。選挙の怖さを知った瞬間でもありましたが、ちなみにこの令和元年は、連盟活動のみならず青年会議所のテニス全国大会が豊橋で開催された代表幹事を務めたり、実行委員長を務めた所属学会学術大会の名古屋大会が開催される等、それまでの活動の集大成のような一年になりました。

全ての活動に一区切りをつけた私は、令和2年3月25日「日本薬剤師連盟令和元年度定時評議員会」の場にいました。

オレンジ日記

自民党 厚生労働部会副部長
参議院議員・薬剤師 本田顕子



5月5日は薬の日

以前、私が奈良県製薬協同組合を訪問した際、「奈良のくすり」というパンフレットに「薬狩り」の記述を見つけました。女帝である推古天皇が即位した際、皇太子が、それまでの獣狩りの武技に代わり、中国の風習にならって薬狩りをするように進言し、現在の奈良県大宇陀地方で薬狩りをされたという記述でした。

さらに、日本最古の薬狩りの記録として、推古19年(611年)5月の端午の節句の日に、狩りの装束をまとい、野や山にでかけて薬草を採取したと「日本書紀」に記載されていると記述されていました。そして、これをモチーフにして、薬狩りの壁画が昭和18年(1943年)に作成され、私の母校、星薬科大学に所蔵されているのです。

インターネットで「5月5日は薬の日」で検索してみると薬狩りの記述に辿り着くことができます。こどもの日に、子供の健やかな成長を願って菖蒲湯に入ることも薬狩りの名残であるのわかります。

身近な薬草やその他の天然物を利用し、様々な知識・経験が蓄積され、薬草が民間薬となっていた薬の歴史は興味深く、そうした歴史の延長が今の私たち薬剤師に引き継がれているのだと思います。

こうした民間薬の普及に貢献された立役者が女性の推古天皇だったことにも驚きました。医師や薬剤師がいない時代、家庭を守り、家族の生命を守るという女性の役目が大きかったことを示すものと感じました。

今は長らくコロナ禍との戦いが続いています。身近な大切な人の命を守るために、私たち薬剤師の持つ知識と経験を一人でも多くの方に届けてあげられるように頑張っていきたいですね。



薬狩り壁画(星薬科大学所蔵)：赤い傘の下に推古天皇

編集後記

素晴らしい原点復帰

K 大学から新型コロナウイルスに関するウェブアンケートが送信されてきた。早速、どんなアンケートなのかと開いてみた。最初は、性別についてだ。「男性」「女性」「その他」回答したくない」とある。チョット戸惑い、この順序に違和感があるなど思いつながら「男性」にチェックを入れた。私も母は私を男性として育てた。私も反発することなく無意識で従った。「男は立くんじゃなく」「身体を鍛えろ」「弱い者いじめするな」「女性を助ける」「服の色は青...」この育て方の中には、母の思い描く理想の男性像に近づけたいという思いもあっただろう。一方、父は厳格な人であった。見合いつつ結婚したためであらうか？妻は俺に従えという感覚で接していた。その父の背中を見て育った。この思いは教えられたのではなく、家庭環境から身についたと思う。

家(血縁)を中心とした社会から個人の生き方を尊重する時代へと変遷し、バラバラとなっていく感覚がある。こうした意味で、男性と女性を区別する私は要注意人物だ。幸いにして同様の環境で育った家内は不満もあらうがなんとなく一緒に暮らしてくれている。

京都 東本願寺の外壁には「パラパラでいっしょ」と掲げられている。初めて目にしたときには何の事か分からなかった。生物学的に見ると「性は重要だ。これなしでは種の保存が出来ない。問題なのはこの間を繋げる「性」の在り方をどう捉えるかと言うことだ。」「しかなかった」「LGBTQ+ (lesbian, gay, bisexual, transgender, and queer (or questioning)) と多様化した。正に「パラパラ」だ。しかし、種の保存を考えるとどこかで纏まらざるを得ない。

ある高僧が今を「素晴らしい原点復帰」と評価されていた。その真意は、重要なことはつきり見えてくるからだという。違いを認め、その事実をありのままに受け入れる。根源の命は一緒だ。そのことを言わしめていると私は理解している。

薬剤師として、その理念には様々な考え方があろう。しかし、個々の夢を表現化するためには、どうしても国会議員が必要だ。最後は薬剤師法第一条に収束することを確認し、仕事を続けたい。

- 広報委員
鳥海 良寛、石井 甲一
大澤 泰輔、丹羽 松弘
橋本 昌子、加茂 雅行
和泉啓司郎、渡邊美知子